

甚後乃り所を尋ねて可か傳事も大
分慣れたせり心な若境も
意氣一ツで切掛けり水も思ひ
すすい愈た平洋沿岸七丈
津祖のたのし開放をいすたか
ネガのウエスる件也かおフレスイ
或ハオアゴる件もこの読者の
たの土地持り轉住したい者
も大分踏破すさうです。そ
れが当然です。
南収着所い帰る法新者か考
体を生て心に録録をやつた
為め當局の忌諱の融水に
ドリ〜インメトキゾ（拘外）
居ます。ワイルドをる者は
何時かやなる境遇に陥るの
判りません。其考心悟か必要
です。

今を剛就南時外、満砂那、鶴
湖で作る左詩が三十、第、ありませ
ぬ、道、之、主、又、ま、す、是、は、新、よ
す、し、もの、す、が、あ、る、た、場、合、差、之
が、就、後、景、(道、之、主、の、水、は、ま、い
の、ま、す、其、中、で、紅、鉛、筆、で、マ、ー、ク、
た、の、は、他、日、早、で、ヒ、キ、ード、の、次、入、ん、で
見、たい、と、思、う、た、お、う、た、考、ひ、の、詩
が、す、ま、マ、笑、え、保、存、し、て、置、く、と
あ、る、い、
次、と、五、拾、弗、を、高、格、を、送、ら、ま、す
今、必、要、の、白、紙、毛、罫、物、が、あ、る、と、云
ふ、お、れ、は、は、は、り、ま、せ、ん、是、も、違
取、て、預、か、う、と、話、て、是、も、水、は、ら、ん
い、の、ま、す、兎、角、時、々、清、道
信、を、新、ひ、ま、す

二月廿日

言、信

言、信、保、守、節、書

南越湖の移住はさすお易いもの
はさす敵性外人とていま一ニそれの
子より先子もうたやうに著作を造る
餘りの本誌中を掘出た結果を
すまじい入りにをりまうわら何時
梅事なす少く判らざるへて水で没
収を水で惜しいまき物なとは今も
に台片付けを主人必要があるを
す又、に同封の詩一九二七年、
戦意のものといふまきと折らもの、
再録をす是、日本の詩人、
つと其中の佳作だけを非常
印刷附して並つて後日の
念といふす

又土捨弗遠くまよ、
常の際に伊藤ひらとてい
お一

三日十日

仁

言語深き即探

加何字解轉任者、
追筆の類々をす

清手紙ある生活が困窮をなすは
自由転住者の臨ごが立論するに
すじかぶらひきりたる若い女性の
一陰の生活をとりたる者なり
なほはありませんか今の場を
入るに最も懐くむくみで
水は一家が餓えろはあり
愛も得し小まといやうな
またう子供のたのしい
はたまた二人をば辛抱す
家計をゆける好い方法
近南側の早南り野地十坪程
の野菜畑を造るのよし
播種して三月成る三日
食料となるますし
乙南局者文書する
デトロイトで十分一家の
らる預書がご所たら
も良いとせり

先づは通商手続を南所、所々
やうに通信手続一層、変更
南局を既に決定本二十ヶ四
百名をうけること、ある
成、廿四の唯一の輸入の生着
可成、就この唯一の自由通
信のラストの所やうに先づは中
と並べ、一、自由の所を所
送附手続、何事、所保
たの上、所保の所、所保、
所保、所保、所保、所保、
一、所保、所保、所保、所保、
を所保、所保、所保、所保、
高邦、所保、所保、所保、
自由

の滞使ひはるるに
幕印中
上り申す横濱の金預金
貴家と生家とを分配せし
事より折判の投寄りより南乙
るを至南と存し其年簿小
生多き折金の此より幸へ
中にお先之俾給の際にお家
の存あり何の計画もなし
滞一回極の健康と御安事
を祈らるる事

六月二十日 言橋仁八

言橋源吉郎君

開戰後之作

不落海城一瞬亡

嘆驚上下極周章

堪嗚當局胸心小

一琴檣收三百良

(五四二一九)

此行何處覓御家

落日平沙一路遐

豈想天匠逢戰禍

殘生命運托傳車

(五四二一九)

一古稻園四十表

嶂崒世路想同人

豈圖天外與君會

共作楚囚塗戰塵

(五四二一九)

炎帝治心威不可禁

人如喪狗趁涼陰

山歎不識山根苦

卓立中天殘雪深

(五四二一七)

邊境蕭條落日收

霜林處之惹哀愁

破陣千里倭州景

為送翁園一葉秋

(五四二一九)

暗雲籠曉歲茲新

戰禍街頭無賀人

天意明之君識否

淒雷慘雨米洲春

(五四二一七)

峻峰戴雪遠山哀

今作楚囚入劫旬

黃鳥不鳴花不飛

沙風漠之拂衰顏

(五四二一九)

一過沙風暮色閉

蕭條夜火照邊關

揚頭一万里望御國

新月如眉惹雪山

(五四二一九)

一輪明月照邊州

暗淡峯峦對戍樓

欣告楚囚今夜憶

無心雲影嚮西流

(五四二一九)

落之風雲既二年

狡英黠米有時顛

楚囚暗愧所何奉

新世史翻洗打天

多事一年除絕境
窮居幸得避風塵
人歌舞石不知時節
探照燈煌入歲新

(一九四二—二一三)

辛甚處身須拙誠
監居恬澹世緣情
喜憂元是一如境
奧遠天心秋月清

(一九四一—二〇一)

雪山夕下二天秋
兵禍索居多恨愁
今晚似笛盈尺雪
願望將去憶并州

(一九四一—二一二)

山迎水送火車通

忽見白峯摩碧空
山色玲瓏思富岳
巍然兀立夕陽中

(一九四一—二一二)

聖戰多年神劍振
宏謨半就命畧新
共榮一團訂盟固
一字八紘東亞春

春成雪山鎖四周
聞君今去向哀州
相逢如夢別如幻
奧遠長傳在話頭

(一九四一—二一四)

繡史轉思權力爭
盛衰有跡自分明
乾坤一擲今時業
七海九州決輸贏

義重楚囚甘謫遷
一身零落付雲煙
檻車輾轉向窮北
雪罩山河松柏鮮

(一九四一—二一二)

筆於鶴湖作

鏤柵城中月始圓
雁行空去入雲煙
胸中磊塊展何日
万里思飛東亞天

(一九四一—三一九)

瑣多英國一教又系
 信保卓卓乖君王
 寄寓十年異邦裡
 猶介又厭方土香
 百餘英漢往那兒
 遠望西陸孤收揚
 指針渺茫二閱月
 寂寞慘慘入絕鄉
 殘臘寒雲蓋冰雪
 凍餒先過三冬長
 蛩瘴交侵春還夏
 親子相謝同袍亡
 又無一人恨上帝
 堅把耒耜開榛荒
 光服曠原作樂苑
 勁節凜凜如秋霜
 煥發自由紀綱改
 新天磅礴維倫常
 請見上月花字手推言
 後年建國為憲章
 百五十兵抗五千
 滿城橫屍血如泉
 吾今來訪安敦驛
 憑弔當年雨似煙
 大江千里接天出
 兩岸綠濃漁十州
 無限水流無限草
 恨無西騎客倚江樓

(一九二六年六月廿九日) 再錄

狂瀾吳雨海天鳴
 孤棹能支鬼亦驚
 舟子心腸堅似鐵
 奴氣拂去月輪清
 稻園星殞夜風悲
 偉魄長留茂國基
 經世功勳人悉仰
 巍然東海一男兒
 花散悲風滿稻園
 遺芳不盡馨香後
 天雁遙平追憶淡
 舊國寺邊漢國魂
 雙花可憫伴風塵
 轉惜紅顏異域春
 一夜綿綿唱復活
 嫣然裏衣轉蓬人
 多年霜雪業初成
 異域能傳異文名
 坡士敦博風口再集
 感懷自胖葛衣輕
 北米元惟標自由
 朦朧法破立新籌
 富庶元亨雄心猛
 岸視耽之窺亞州
 落磯山上晴雲變
 密棉比河渾溜漲
 口東誰有健兒在
 一羣錫鬲鴨鵝驚愛

華府街頭秋氣橫
列傳擁策講和平
誰知碎壁相如界
東海盛衰挂此行

身世何時功業求
十年空抱屠龍謀
飄蓬千里遠東客
獨數踉程搖落秋

籬畔香深殘菊色
山恣月皎詔無憂
如今自愧胸心小
欲試經綸南望洲

秋風吹滿露孤劍度關遠
當年消息又尋誰
轉昔雄心碎絕陣
回首茫茫三百歲

米田村畔弔殘碑
荒村落日沒西朝
南門山頭望寂寥
此地英雄埋骨處

斷碑以月感情饒
二十年來事一遠征
行程十萬草鞋輕
雄心落落與蒼生

仙骨飄飄任杖行
西羊既窮凡物好
半東花月為君情
觀光欵筆還家日

長留健兒一世名

勝邦望蜀敗邦興
戰後折衝危歲局
宇內何時看戰戰
東西到處劍光疑

偶留芒鞋塵外痕
世變幾度惜桑滄
浮沈難料人生事
張弛不識邦國綱

月照曠野秋夜冷
風捲枯葉望荒涼
天涯空過幾年月
遊子遺達多斷腸

孤節尚存若吟昔
斯心耿耿一身忘
追懷稻園聚螢夕
橫論縱議意氣昂

歲星忽忙既六年
新思回青恨綿綿
復過漢堡土四
寒月如弓殘臘天

過歲遭逢恨惜盈
今年意氣大喜生
鳴鴉報曉乾坤
癸月旭光新日情

月到天心異鄉都
倚欄悵望遠人孤
半生回顧行程跡
嘗盡辛酸想丈夫

忽焉震天帝京上下協衷
萬苦千辛還那屈天降大任在扶桑

一九三七年三月日本開戰予作

羅存渡頭秋日重
西風吹渚浪華紛
天涯轉嘆踈鄉國
滄海寒多水接雲

(1927)

山色崔嵬連碧空
今朝特覓旭光紅
鳳凰鄉畔十年屈
今散西風心志雄

(1928-1-1)

豁水二尋地殼穿
奇巖怪壁恣神鑄
朝暎染出滿溪色
夕日徐移土彩鮮

(1929-4-)

掩映一流幽又家
水声松籟絕塵緣
今探大景遠東客
空倚吟筇立岸邊

志在新天轉法輪
金門灣上結跏人
東漸話歇夜將半
靜見銀蟾出遠岫

(1930)

西乃原頭四十年
空徨南霧也西煙
靈山初仰真如月
一味清風心面傳

途通亂峙嶽巖裡
風物寂寥多連西州
歲月忽忙又似夢
十年六渡格河流

樹幟興安元業定

鏘蹄踐盡亞欧青

休言瑣々滅平事

蒙古大汗源義經

萬國猜謔一國臻

群首評象豈知真

乾坤一擲日由子

高立新旌大滿春

何畏万邦非理評

經綸貫日推言正誠

請見他年開卷日

千里燦然文物榮

一揮神劍神州起

羶血染成紅万里

策馬天山還那時

多年西域妖邪安

痛悲時昔股南涼

今日還都無限情

男子心膽人誰否

敢然取義是王鄉

妙義崔嵬音俊英

忠肝義膽赫西征

秋風殉國爐山峯畔

永使行人說勇名

異鄉桃李客心日

每到春風想故園

墨塹東臺花万朵
咨嗟歲々夢中存

(1939)

(1940)

(1937)

(1933)

(1932)

療澆春塘三四家

桃李半落曲流涯

惜春何獨紅顏限

村老杖藜傷落花

元是東洋窮措大

誤投西陸老飄蓬

秦關衰鬢與誰語

獨入楞禪鎖苦衷

螳螂揚斧向龍車

死字繞支旬日戈

宛是一炊盧氏夢

唯將暗淚對山河

獨軍殺到瞬時中

華震空吹街樹風

霸業已遙人亦沒

凱旋門上月光朦

懸軍万里討妖邪

正氣逆處動似華

禹域何時除白壓

干戈落之歲還加

三十年來客米州

轉蓬徒老方懷宙

猶餘一片奉公志

東海扶桑本順神

君民穆之國威振

今朝特仰芙蓉美 (1940) (1-1)

建國二十四百春

末世兵戈愈慘淒

殘亡千億鬼神啼

人間畢竟歸何處

七海五洲魂魄迷

二十餘年伴虎狼

孤筇對得絕思量

遭逢却喜萬緣脫

好箇禪樓大米鄉

侃談論正所信深

廟堂為邑攬民心

以郎以後獨君在

太白一星煌暮陰

千隻鱉腫壓大瀛

飛機萬葉一天盈

閑鷗不識風雲事

盡日悠悠波上橫

東西對峙太平洋

我艦縱橫蹴巨浪

男子功名期那日

軒然接腕視滄茫

三國盟成柁軸堅

必斷期給碎日時權

猶保米水歐山夜

新世曙開東海天

孤劍當年壽府轟
機軸今日策連衡
新政方似早天雨
柁軸都城新素為

(1941) (1-1)

(1940)

(1940)

松掩洲沙擁一灣
芙蓉冠雪現孱顏
春風海嶽雙眸眺
煙靄浪頭帆影還

舟過晴嵐向唐崎
比鄰伊吹映細瀾
湖岸紅楓裝落照
蓬萊一幅畫中之

雲磴登攀手蹶帝京
浮陀峰上弔遺空
西煙何處鷓鴣林遠
一世雄圖想望晴

風暖春塘蛺蝶飛
村童戲折菜花歸
老翁不識市喧事
澹水垂綸魚上稀

曠尋往古平城蹟
隴麥青々野徑長
唯見法身趺坐像
千年默々語興亡

君托之送之

湖光一碧映芙蓉
泛々白帆春靄濃
村媪採沙拾貝如
眠鷗不起靜波從

水聯碧玉山裝錦
嵐峽鴨川秋色清
慶々宝樓籠暮靄
紅楓深處起鐘聲

風冷嵯峨暮色移
松音似瑟想當時
哀愁獨託柴門月
今照古塔秋露滋

古色蒼々山寺寥
陋窗斗室駐南朝
延元恨事又何極
幽鳥參差斜照遙

多武峰頭眼界晴
三山如堙麥畦橫
扶桑肇國發祥地
一望靜幽太古情

影似行兵鉄柺雪
清敲曲浦鼓鼙聞
西樓吹笛梅花落
妙韻和香傳古墳

男兒何畏斗筭評
獨對昊天詔至誠
請見猛雷風雨裡
依然富嶽玉容橫

江湖幾歲負家鄉
一省意顏双淚滂
浩嘆恩個何日致
遠程將上別愁長

凱歸軍上一江遮
征馬遠巡郊月斜
大喝涉流鞭運命
英雄千古武董加

華申未知壯意頹
南溟北漢蹴波回
懣懣未報學忘感
魁偉溫顏映眼來

霜葉如花煙似霞
落陽輕暖彩雲斜
田家秋物騷人好
獨倚閑窓見晚鴉

塵外年新賀客稀
竹林深處閉柴扉
世情不管高眠士
靜待南窓梅朵微

長髮髻々竹屐輕
稜々意氣學園盈
挑燈慷慨論東亞
起押寮窓月五更

君祖劫人有題辭
何惜花顏妾亦隨
貞烈不禪忠烈士
池邊永止斷腸碑

天涯秋風拂客衣
紅楓搖落晚鴉飛
光陰空去人還老
遠望家鄉對落暉

櫻雲十里罩京華
狂蝶驕兒亂舞華
最戒書生自俗樣
須持高節避浮華

桃李競妍春水隈
池塘草色綠氈開
最欣塵外煥累少
把耨春風新菜培

城裡稚龍幾百千
邦家材用屬他年
今朝一雪齊還如祝
輕幟翻端立天

(一九四一五)

耳順更加三閱年
如今意氣尚掀天
若曹不識吾生想
敬老慇懃招賀筵

(一九四一六)

米卒兇行蕃昌為
飛彈一瞬忽橫尸
哀傷淚下九千客
細雨蕭蕭弔健兒

(一九四一五)

賦匡萬金腰裡充
鷓鴣張大詔罔私公
中宵一閃天誅七
羶血淋漓兌券紅

(一九四一七)

北米中原還逐鹿
民心趨處決雌雄
不知誰克虜時局
屬目敗戈收拾功

邊城三千簇解家
夫若未索寞莫英葩
可憐城裡奈何樂
唯見街頭鬻鬻花

(一九四一四)

天涯二萬楚囚屯
一片矜持報國魂
君請莫言冥助事
敵中全命是皇恩

(一九四一六)

遭逢愈識帝威明
日國男兒曷惜生
恨殺楚囚今日屈
天涯空抱奉公誠

(一九四一六)

久聞城中躍妖邪
一夜劍光斬大蛇
義憤初看男子膽
光風霽月散雲霞

(一九四一七)

蕭條風物鎖辺寒
身作楚囚何日還
鴻雁西飛明月夕
夢魂空繞故園山

(一九四一四)

米艦末寇幾千百
舳舻相銜万里長

東亞元是缺壁陰
我軍邀擊手全武裝

時維甲申秋十月
比島東方零丁洋

霹靂閃電起一瞬
現出何鼻修羅場

見我海軍神風隊
一機一艦一死強

陸機潛艇援襲擊
敵蒙大爆徒周章

擊手沈擊平破又擊燒
海上百慶見炎揚

殘艦失神不知作
溺屍幾萬漂激浪

壯絕淒絕鬼神哭
海戰史上古煌

嗚呼偉哉神風隊
一拳粉碎米賊望

君不見紅顏美少年
忠肝義膽鍊石腸

奮躍散華殉君國
功勳赫々遺名芳

(五四一三一三)

決然取義友邦投
東亞共存參大猷

鼠輩宋蔣何所作
眼光低劣結仇讐

君元執烈憂中國
坎珂半生志始酬

一夜濤馬墮大白
長江波咽紫金秋

漢之多年醉戰禍
五洲七海化修羅

叱君知否雌雄定
東亞既覺看新世和

萬里雲山望劍客
五千余卷道標經

近思切問終有用
一死直心入宝庭

報國健兒團結堅

種才當局幾人權

四更月凍臘殘夜
拍東首班班請卷

落落凡雲幾轉卷
陰艱常憶遠東天

身生坎珂事違志
柵裡空除又一年
(五四一三一三)

M. Takahashi
8107-E
Newell, Calif.

W. Takahashi
寄子
大

五
十
五

寄
子
大



Mr. G. Takahashi
% St. Joseph Sisters Home
Nazareth,
Michigan

HAZARETH
MAR
17
8³⁰ AM
1945
MICH.

